

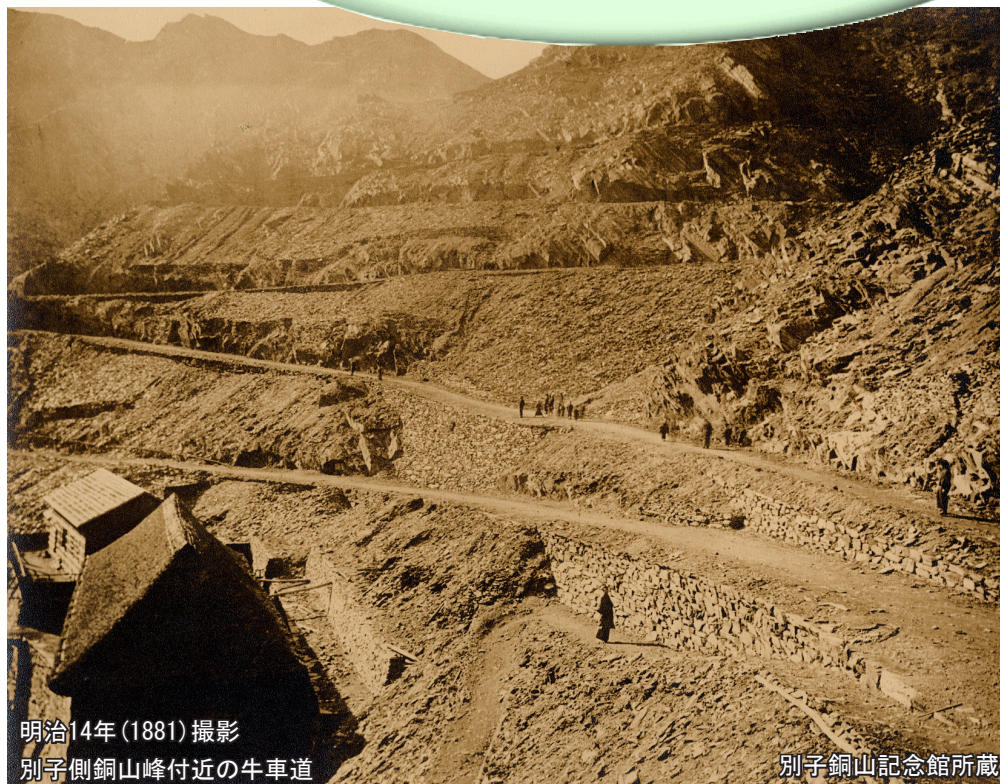


運搬 広瀬幸平 ルイ・ラック

15
まいん

ぎゅうしゃみち 牛車道

近江牛
運搬近代化の先駆けへ



明治14年(1881)撮影
別子側銅山峰付近の牛車道

別子銅山記念館所蔵

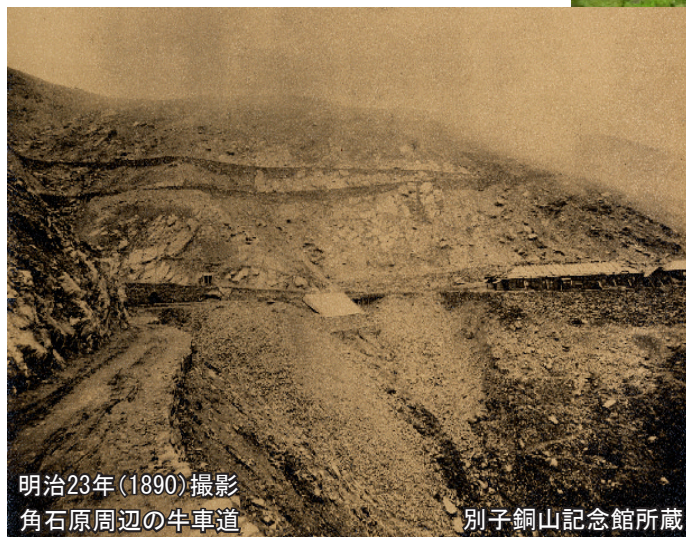
ぎゅうしゃみち 牛車道

は、明治9年(1876)7月頃開削に着手していましたが、翌年3月に勃発した西南の役により労働者や火薬の確保が困難になり、技術力の限界などから、一時開さくを中止せざるを得ませんでした。

広瀬幸平は、事態の打開を図るため、明治11年2月、工部省鉱山寮技師・大島供清を雇用して、牛車道の開さくを再開させ、明治13年11月に、銅山峰から石ヶ山丈を経て立川中宿までの牛車道が完成しました。総工費は10万円余りでした。



現在の牛車道



明治23年(1890)撮影
角石原周辺の牛車道

別子銅山記念館所蔵

牛車道で使われた牛は、広瀬幸平の故郷である近江国(今の滋賀県)から連れてきて引かせ、明治14年当時には18頭の近江牛が働いていました。

この事業は開坑以来、仲持と呼ばれる人達による運搬から牛に変更するという物資輸送の近代化の先駆けとなりました。

牛車道を提案したのがルイ・ラロックであり、強力に推進したのが広瀬幸平でした。別子近代化起業のうちのひとつでした。

